

## 世界で2個体目の深海魚，デメニギス科 *Dolichopteryx anascopa* Brauer, 1901 の形態，113 年を経て明らかになる

デメニギス科の *Dolichopteryx anascopa* は，A. Brauer 博士によって，インド洋ココス諸島の近くで採集された標本に基づき，1901 年に報告されました．しかし，この標本は破損しており，種の形態は十分に把握されていませんでした．その後，1 世紀以上，本種の採集例はありませんでした．

2007 年，北西太平洋西マリアナ海嶺で行われた白鳳丸によるニホンウナギの産卵場調査航海において，この種と思われる個体が採集されました．この標本は，多くの点で A. Brauer 博士のスケッチと一致していましたが，脂鰭があることで異なっていました．もし，スケッチが正しければ，西マリアナ海嶺の標本は，A. Brauer 博士の標本とは種が違うことになります．



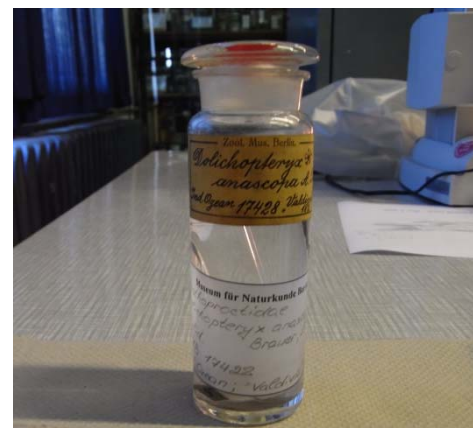
採集に用いた口径 2mORI-BF ネット

スコールの後の虹，二重の虹は非常にめずらしい！

この属の仲間の脂鰭は非常に小さく，体の背縁に形成されるくぼみに隠れていることがよくあります．そこで，私たちは，A. Brauer 博士が報告した標本が保管されているベルリンにあるフンボルト大学自然史博物館へ，標本を観察するために出かけました．



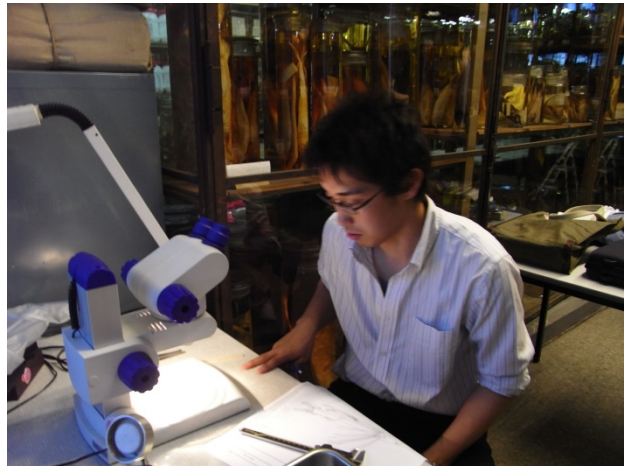
フンボルト大学自然史博物館の正面玄関



*Dolichopteryx anascopa* のホロタイプ  
プ ZMB 17428

私たちの予想通り、体の背縁のくぼみには、鱗膜と連続している極めて小さな脂鱗がありました。他の特徴も良く一致しました。これらのことから、西マリアナ海嶺の標本は *Dolichopteryx anascopa* と同定することができました。

今回、採集された標本は、下記に示すように、まったく破損していません。そこで、A. Brauer 博士の標本と西マリアナ海嶺の標本を用いて、本種の形態を記載し、*Ichthyological Research* に本年 5 月 29 日に投稿、8 月 5 日にオンラインジャーナルに掲載されました。



*Dolichopteryx anascopa* のホロタイプ ZMB 17428 を観察するこの論文の筆頭著者の水澤信之君(東海大学海洋学研究科, 現在, ニチモウ株式会社勤務)

A. Brauer 博士の報告後、実に 113 年が経過していました。



*Dolichopteryx anascopa*, NSMT-P 95484, 33.5 mm SL

#### 引用文献

*Ichthyological Research*

Redescription of the spookfish *Dolichopteryx anascopa* Brauer 1901 (Argentinoidei: Opisthoproctidae)

Nobuyuki Mizusawa, Munehiro Takami, Atsushi Fukui

<http://link.springer.com/article/10.1007/s10228-014-0424-9>

(文責 福井 篤)